

畑作・野菜・花き生産情報 第5号（要約版）

令和7年8月20日
青森県「農林水産力」強化本部

- ◎ 大豆では、紫斑病、マメシンクイガの防除を徹底しよう！
- ◎ 台風や大雨に備え、ほ場や施設周辺にある排水口の点検や整備のほか、施設への雨水流入を防ぐために土のうを設置するなど、排水・防水対策を徹底しよう！
- ◎ 野菜・花きでは、高温・水不足の影響が見られているので、対策を徹底しよう！
 - ・生育に応じたかん水や葉面散布等を行い、草勢を維持しよう！
 - ・病害虫の発生に注意し、早期発見・早期防除に努めよう！
 - ・施設では換気や遮光をこまめに行うなど、適正な温度管理に努めよう！

○大豆

- ・生育は順調で、開花期は3～7日早まった。
- ・紫斑病やマメシンクイガの適期防除を徹底する。
- ・落莢を防ぐため、乾燥しているほ場では、うね間かん水を行う。
- ・大雨に備え、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの排水対策を徹底する。

○小麦（は種の準備）

- ・適期（9月15～25日）には種できるようなほ場を準備する。
- ・ほ場の団地化を図り、明きよや弾丸暗きよなどで十分な排水対策を行う。
- ・土壌分析を行い、酸度矯正が必要な場合は、苦土石灰等により土壌改良を行う。
- ・紅色雪腐病の被害を予防するため、種子消毒を行う。

○ながいも

- ・地下部の生育は、地域やほ場によるバラツキが見られるものの、順調である。
- ・病害虫は、葉渋病、ナガイモコガ、ハダニ類、コガネムシ類、カメムシ類の発生が見られる。
- ・台風など強風や大雨に備え、ネットや支柱を補強し、明きよを手直しして排水溝へ接続するなどの対策を徹底する。

○にんにく（ほ場の準備）

- ・イモグサレセンチュウなどの病害虫が発生していないほ場を選ぶ。
- ・外部からの土壌病害虫の持ち込みを防ぐため、作業は種苗増殖ほ場から行う。
- ・堆きゅう肥や土壌改良資材は、土壌診断結果に基づいて施用し、必要量以上に投入しない。
- ・種球の保管中に20℃以下に長時間遭遇すると萌芽・発根が早まるため、室温を概ね20℃以下にならないように管理する。
- ・ネギアザミウマ、チューリップサビダニの被害を防ぐため、種球の分割・調整はできるだけ植付け直前に行う。

○夏だいこん

- ・は種期は平年並で、は種直後の降雨の影響で出芽不良が見られたが、その後の生育は、平年を大幅に上回っており、順調である。
- ・一部では、7月の高温・水不足の影響により、内部が変色する症状（赤芯症）やキスジノミハムシが発生している。

○秋にんじん

- ・葉数が平年をかなり下回っているものの、葉長は平年並であり、生育は順調である。
- ・一部では、7月の高温・水不足の影響により、出芽不良が見られる。
- ・病害虫の発生は見られない。

○ごぼう

- ・草丈は平年をかなり下回っているものの、葉数は平年を大幅に上回っている。
- ・一部では、7月の高温・水不足の影響により、生育のバラツキが見られる。
- ・病害虫はハムシやハモグリバエ類が散見される。

○夏秋トマト

- ・着果量は確保しているものの、7月の高温の影響により、落花や尻腐果、裂果等が見られている。
- ・肩換気などにより適正な温度管理を徹底する。また、適切なかん水、肥培管理により草勢の維持に努める。
- ・灰色かび病、葉かび病、アザミウマ類の防除を徹底するとともに、タバコガ類、コナジラミ類、トマトキバガの早期発見・早期防除に努める。
- ・浸水した場合は、草勢の低下を防ぐため、摘果や早採りで着果負担を軽減する。また、冠水した場合には、動力噴霧器で散水し、作物等の泥を洗い流す。さらに、マルチを除去して、株元を乾かし、根の回復を図るとともに、冠水した果実を早急に取り除く。

○ねぎ

- ・生育は、草丈、茎径とも平年を下回っている。
- ・一部では、葉先枯れの発生や生育が停滞気味となっている。
- ・最終培土は、収穫の30日前頃に行い、葉の分岐部まで丁寧に土を寄せ、軟白長30cm以上を確保する。
- ・べと病、葉枯病、軟腐病、さび病、黒斑病、アザミウマ類など病害虫の防除を徹底する。

○夏秋ギク

- ・7月の高温の影響により開花が遅延し、お盆向けの作型では、収穫始めで平年より1日から9日、収穫終わりで平年並から平年より7日遅れた。
- ・白さび病の予防を行うとともに、アザミウマ類、ヤガ類などの発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。
- ・収穫後の株を翌年の親株にする場合は、形質が優良な、健全な株を残し、地際から10cmの高さで刈り込み、直ちに追肥し、土寄せする。

○秋ギク

- ・生育はおおむね順調で、アザミウマ類の発生が散見される。
- ・わき芽は、小さいうちにかき取り、花首の伸びやすい品種を栽培している場合は、ビーナイン顆粒水溶剤等を散布する。
- ・奇形花の発生を防ぐため、高温時には換気を十分に行い、必要に応じて循環扇や寒冷しゃ等を活用し、施設内温度をできるだけ低くなるよう管理する。
- ・白さび病、アザミウマ類、ヤガ類等の発生に注意し、早期発見・早期防除に努める。

○トルコギキョウ

- ・7月の高温の影響により早期開花が見られ、お盆向けの作型では、収穫始めで前年より10日、収穫終わりで前年より9日早まった。
- ・病害虫の発生は見られない。
- ・発らい後はしおれない程度にかん水を減らし軟弱徒長を防ぐ。
- ・ハウス内が高温・過湿にならないように適正な温湿度管理に努める。
- ・涼しい時間帯に収穫し、速やかに品質保持剤による前処理を行う。

※農なび青森 (<https://www.nounavi-aomori.jp/>) に本文を掲載しています。

◎熱中症予防運動を展開中（6月1日～8月31日）

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されました。

◎ツキノワグマ出没警報発令中!!（5月1日～11月30日）

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

◎環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう。

◎令和7年度青森県農薬危害防止運動展開中（6月1日～8月31日）

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 八島敏行 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木村一哉
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長 栗林豊 内線 4967